

TOPIC

運動会プログラムイラスト展 学級代表決定！

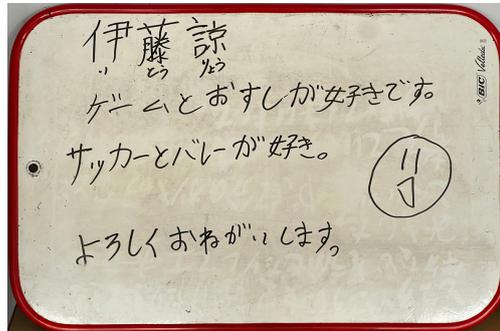


19日(月)運動会プログラムイラストと募集が終了しました。6年生からは、左の7名の応募がありました。かわいい作品もかっこいい作品もあり、小学部の先生たち悩みに悩み、代表を選びました。今年、6年生代表は**小松茉唯梨**さんに決まりました。リレーのバトン渡しをていねいに表現しています。

残念ながら代表には選ばれなかった作品は今年から、イラスト展としてバスホールに掲示しています。運動会への熱い思いとやる気を感じられる力作揃いです。ぜひ、ご来校された時にご覧ください。代表作に選ばれた小松さんの作品は、今年の運動会のプログラムに掲載されます。

BIG NEWS

6年1組に新メンバー加入！



19日(月)転入した**伊藤諒**さんです。山形県からやって来ました。バスは1号車です。

時差ぼけの残る中、月曜日から登校し元気に1週間過ごしました。走るのも得意ということで、運動会での大活躍を期待しています！白組です。

まだ数日ですが、すっかりクラスにも馴染んでいて、男女関係なく話もできています。新しい風が6年1組に吹きこんだ感じがしています。

SCHEDULE

来週の予定

日	26日(月)	27日(火)	28日(水)	29日(木)	30日(金)
行事	内科検診			キリスト 昇天祭	PONT
1	国語	英語	算数		
2	理科	音楽	国語		
3	体育	算数	社会		
4	算数	体育	理科		
5	フランス語	理科	図工		
6	委員会	道徳	学活		
持ち物	体育着	体育着 リコーダー			
下校	15:40	15:40	15:40		

応援団リーダー燃えています！



英語学習にも燃えています！



諒さんもパリ日で燃えています！



一人一人、燃えることは違うかもしれませんが。燃え方も違うでしょう。でも、やる気という炎をずっと燃やし続けてほしいと願っています！

今週の傑作俳句

国語「パリ日6年生句会～春～」

20日（火）、国語の学習でパリ日6年生句会を開きました。第1回目は「春」をテーマ俳句を詠みました。1人2句まで投句し、1人3票を持って得票の多かった順三に一席・二席・三席を選びました。選ぶ基準は「表現の工夫」「イメージしやすい」「まねしたい」の3点です。

散る桜 となりに堂々 エツフェル塔	飛吾	春暁 海から上がっていく 赤いイクラ	飛吾	エツフェル塔 桜がなびく きれいだな	彩音	お花見だ テキスト開け 勉強だ	好風	春盛り 桜数えつ 駆け回る	千慈	春雨で 頭をかかす エツフェル塔	由貴	このにおい 朧月夜の 春の風	諒	藤の花 それ見て笑う すずめの子	千紗	静かなる 月夜の中で 光る藤	千紗	降る雪が 雨に変わって 雨水かな	絵真	桜の木 春一番に うつくしむ	はづき	ウグイスも おどろく大きさ エツフェル塔	諒	降る雪が 解け雨と化す 雨水かな	凌太	白き門 栄華を刻む 春暁と	凌太	春雨止み 暁の光 時刻む	茉唯梨	頭にね コツンとおちた マロニエが	茉唯梨	ふきのとう 雪の中から ボンジュール	司	春が来て 最初に見るのは エツフェル塔	司
-------------------------	----	--------------------------	----	--------------------------	----	-----------------------	----	---------------------	----	------------------------	----	----------------------	---	------------------------	----	----------------------	----	------------------------	----	----------------------	-----	----------------------------	---	------------------------	----	---------------------	----	--------------------	-----	-------------------------	-----	--------------------------	---	---------------------------	---

一席は、茉唯梨さんの「ふきのとう 雪の中から ボンジュール」と諒さんの「藤の花 それ見て笑う すずめの子」が選ばれました。二人とも“様子が目に浮かぶ”という評価をみんなからされていました。俳句を詠むには、どの言葉を残し、どれだけ削るかがすごく難しい作業になります。でも、6年生の子どもたちはそれをむしろ楽しんでいました。「先生、もう一句作ってもいいですか？」そんな問いかけもたくさんありました。子どもらしい言葉のチョイスをする子ども、大人びた言葉で自分の俳句を彩る子もいます。いろんな俳句を見せてもらって、大人にはできない、詠めない俳句もたくさんあることに気づかされました。中学部国語担当の高橋ひとみ先生にも見てもらい高く評価して頂きました。本当にいいセンスをしているんじゃないかと思えます。子どもたちの作品は、第46回海外子女文芸作品コンクールに出品させていただきます。